

わが校の紹介

考える子
やさしい子 つよい子
— いじめとごみのない、
日本一美しい学校 —

養父市立養父小学校
校長 尾崎靖宏

右岸道路「やぶ道の駅」真向かいの山裾に悠然とそびえ、春には満開の桜の回廊となる「あいさつ坂」が子どもたちを迎える、開校132年の歴史と伝統を誇る学舎です。

■みんなのめあて
— かんがえる子
やさしい子
つよい子 —

窓 安心安全を地域でつくる

昔は「子どもは風の子」と言われて、寒い日でも、子どもはそこら中を走り回っていました。そんな中、いつも大人の姿が村中や田畑にあり、いざとなったらすぐに助けてもらえる環境で、安心して過ごせました。今考えると、子どもが自由に伸び伸びと遊べる暮らしは豊かな生活なんだなと思えます。

養父警察署によると、昨年

かんがえる子(自ら学び、考え、すすんで行動する子)

「させられる立場からする立場へ」の意欲・態度が身についた時、「真の学力・生きる力」が育つ。自分自身で学び取った「真の学力」を基盤に、物事を「損・得」でなく「善・悪」で判断し、自分の正しいと信じる道を着実に歩み続ける人になろう。

やさしい子

「こころ優しく、たくましい子」常に相手の立場に立って考え、発言・行動ができる人。「いじめとごみのない日本一美しい学校」づくりを、みんなと一緒に実践できる人になろう。

つよい子

(ねばり強くやりぬく子)自らを律し、是は是、非は非としっかりと主張でき、課題

市内では、大事にいたりませんでしたが、11件の不審者出没がありました。

今の子どもを取り巻く環境は、交通事故、不審者、熊の出没など大きな事故につながる新たな課題が発生しています。学校では、PTAと協力して子どもたちに安全対策のための指導や活動を行っているところですが、子どもたちを取り巻く環境をより安全にするためには、地域のみならずの協力が必要です。

解決に向かって最後までねばり強くやりぬく、たくましい、やさしい心を持った人になろう。

子どもたちは、今日も元気に活動しています。

この子どもたち一人ひとりの「光」と「瞳」が決して曇らないよう、学校・保護者が「考える教師」「やさしい教師」「つよい教師」。「考える保護者」「やさしい保護者」「つよい保護者」となり、地域と一体になって教育を推進していきます。



次のことを市民の皆様にも願います。

- ① 子どもの外出の際は、行き先をはっきりさせる。
 - ② 一人で遊んでいたたり、暗くなるまで遊んでいる子どもには一声かける。
 - ③ 不審な状況を見かけたら、迷わず110番通報する。
- 安全は、人の目や手が作り出すもの。子どもたちを守り育てる地域社会を次世代にもつなげたいものです。

(学校教育課)

まちの文化財⑧

養父神社の狼像

養父神社に初詣に行かれた人も多いことでしょう。養父神社の拝殿の前に、尻尾を高く上げた狼の石像があることをご存じでしょうか。

二対の狛犬が並んでいるように見えますが、一対は明治26年に建立された狼の石像です。口を開けているのが雌で、閉じているのが雄です。

日本狼は明治38年に絶滅しましたが、養父神社には石像として残っています。田畑を荒らす猪や鹿から作物を守る益獣が、狼なのです。

今から190年前、文化11年(1814年)、伊能忠敬は養父市内を測量しました。旧暦の正月16日の測量日記には「但馬国養父郡出石領、養父市場村出立。藪大明神前、社印迄、五町四十五間。神前迄三十間。式内夜夫坐神社」とあります。70歳の伊能忠敬は真冬の雨の日に、養父神社を訪問しました。

話は変わりますが、徳川家康の旗本になった朝倉氏と八木氏が、幕府に提出した系図があります。そこに朝倉高清



の経歴が書いてあります。

鎌倉時代の関東に、大きくなると210kgを越える白猪が暴れていました。源頼朝は、朝倉高清にこの白猪退治を命じました。そこで7日間、養父神社にこもって神前から鎗矢をもらいました。この矢で白猪を退治して、源頼朝の家来になれたといわれています。

暴れまわる白猪は、狼が守る養父神社から授かった矢の霊力によって退治することができました。狼は田畑の作物を猪や鹿から守る良い獣だったのです。

グリム童話「赤ずきん」の狼は人間を食べますが、養父神社の狼は人を助ける神様の使いなのです。

(社会教育課)